

資産作りの 新常識

まさおか としゆき
正岡 利之 (MUF G資産形成研究所長)

預金利息と似て非なる投信分配金



1982年、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社。主に年金や投資信託を中心として、資産運用業務に携わる。2015年より同社で金融教育業務に従事。18年8月より現職。



債

券や株式からの利息や配当金は、その債券や株式を保有している投資信託の中に入ってくる。有価証券の利息・配当金は、その有価証券を保有する投信の基準価額を上昇させる。株主優待は可能な限り換金され投信に入るの

で、基準価額にも反映する。保有者に投信から「分配金」を支払うかどうかは、投信ごとに決められている。図の左側のように投信の分配金は、その資産の中から一部を切り出して投資家に支払っている。

つまり分配金は、自分が保有する投信の資産の一部を受け取っていることを意味する。従って、基準価額は分配金の支払い分だけ下がることになる。

複利の効果

一方で、銀行の預金利息は図の右側のように、元本に対して一定の利率で、銀行から利息として受け取るので、預金の元本が減少するわけではない。投信の分配金は預金の利息と同じと思いがちだが、実は全く異なるものだ。

受け取る分配金が高いと、運用パフォーマンスがいいと思いがちだが、必ずしもそうとは限らない。

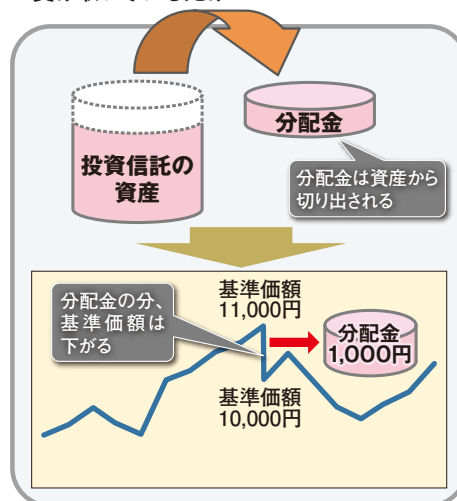
元本を取り崩して分配金を払っているケースもあるからだ。受け取った分配金と基準価額を合計して(分配金+基準価額の動き)で投信のパフォーマンスを把握することが必要だ。

分配金をすぐに使わないのであれば、分配金を出さない投信を選択し、投信の中に資金を残したまま運用を継続すると、分配金の部分も運用資金に加わるの

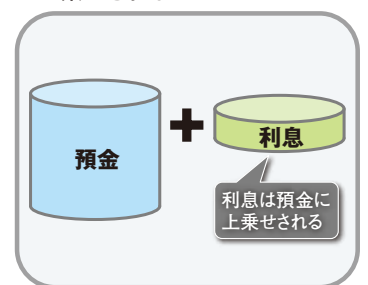
で、「複利の効果」を期待することもできる。しかし、分配金を受け取る投信が全てよくないわけではない。投資元本も含めて、自分の資産を定期的に取り崩しながら生活したいのであれば、分配型投信は便利なツールとなり得る。分配金を受け取ると、受け取らずに複利運用すると、どちらが自分の投資目的に合致するか、また分配金の金額が妥当なのか、また分配金のポイントとなる

分配金と預金利息は大違い

- 投資信託の分配金は自分の資産を受け取っているだけ



- 預金の利息は自分の資産に上乗せされる



る。

投信のパフォーマンスに影響が大きいのが手数料だ。投信を購入する時に支払う販売手数料や運用管理費用(信託報酬)は、低いものを選んだほうがいい。また、信託財産留保額は、換金する際の売却に伴う取引コストを換金する人が支払うべきという考えに立っている。保有を継続する投資家との公平性を保つことが目的だ。

(出所)三菱UFJ信託銀行